

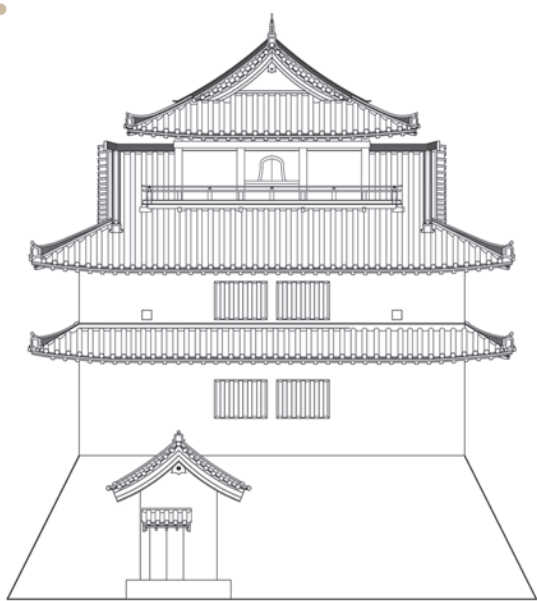
鳥羽城の天守復元図が公開！

平成25年12月1日には鳥羽市民文化会館にて鳥羽ロータリークラブ主催で「蘇る鳥羽城天守閣」と題して広島大学教授の三浦正幸氏をお迎えしてご講演いただきました。講演では、三浦研究室で作成された鳥羽城の天守の復元図が初公開され、「3重部分が極めて古式で、品格のある立派な天守であったこと」「鳥羽城というのは100名城の中に軽く当選するくらいの天下の名城であった」「鳥羽城は立派な城であったということこれから、思い浮かべて故郷の宝と思って欲しい」など、鳥羽城とその天守について大変わかりやすく解説していただきました。

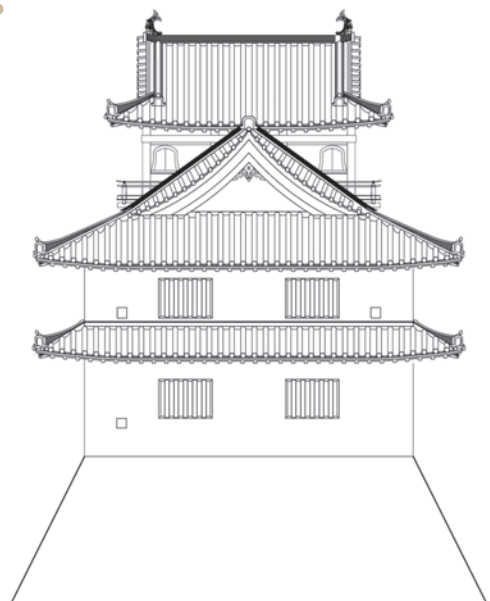


これが鳥羽城天守だ！

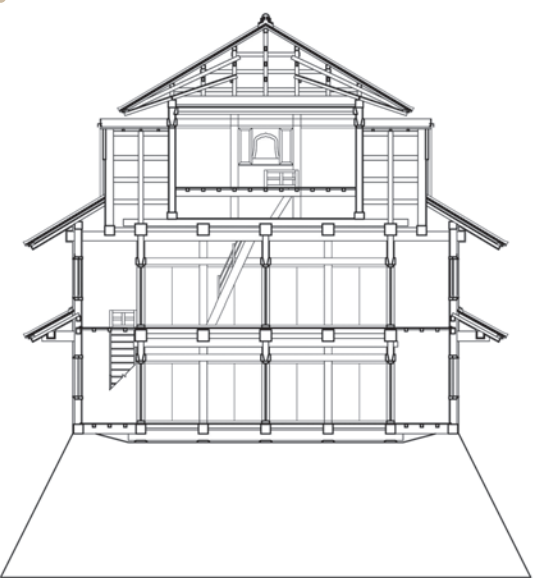
古文書の記録をもとに、全国の城郭建築の研究を行っている三浦先生の研究室により、鳥羽城天守の復元イメージ図を作成していただきました。美しい天守だったことがわかります。



南立面図



西立面図



桁行断面図



梁間断面図

復元図は三浦正幸研究室提供

鳥羽城通信

No.1



活かそう 守ろう
三重の文化財事業

発行:鳥羽市教育委員会
平成26(2014)年 3月

鳥羽市教育委員会では、平成23年度から県史跡鳥羽城跡の発掘調査を実施しています。3年目となる平成25年度の調査成果などについて市民のみなさんにお知らせします。

九鬼時代の石垣と伝説の大井戸を確認！

～平成25年度発掘調査の成果～



「姿を現した石垣の一部」

国と県の支援をうけて、今年度も鳥羽城跡の発掘調査を172㎡の面積で行いました。北端からは、石垣の一部が出土しました。この石垣は長さ約2.5mで、1～2段しか残っていませんが、長さ70～80cm、厚さ30～40cmほどの石を用いて、裏には排水のための裏込めが施されていました。周囲の土の堆積状況から、鳥羽城の中でも古い時期の石垣であり、九鬼嘉隆が城主の時代であった16世紀末頃の石垣と考えられます。



「調査区全景」